

## 文部科学省物品・役務等契約監視委員会（第44回）議事概要

開催日及び場所	平成30年11月29日（木） 文部科学省 会計課会議室	
出席委員 (敬称略)	○委員長 有川 博 (愛国学園大学教授)  ○委員 大谷 益世 (公認会計士) 楠 茂樹 (上智大学教授) 清水 光 (弁護士) 松浦 亨 (北海道大学病院客員診療教授)	
審議対象期間	平成30年4月1日～6月30日	
個別審査案件	8件	○議事 (1) 平成30年度第1四半期に締結した契約の概要 (2) 個別審査対象案件 (3) その他
一般競争入札方式	6件	
最低価格方式	2件	
最高価格方式	1件	
総合評価方式	3件	
指名競争入札方式	0件	
最低価格方式	0件	
総合評価方式	0件	
随意契約方式	2件	
企画競争	1件	
公募	0件	
競争性のない随意契約	1件	
不落随意契約	0件	
事前審査案件	0件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の内容		

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>個別審査案件について（以下、審査順）</p> <p>① 平成30年度世界ドーピング防止機構(WADA) 常任理事会等に係る同時通訳業務</p> <p>【一般競争入札（最低価格落札方式）】 （大臣官房 会計課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非常に高度なスキルを求めるような業務に対して、最低価格落札方式を採用したのはいかがか。また、通訳に要求しているスキルが非常に漠然としていて、仕様として問題ないのか。</li> <li>なぜ同じSランクにもかかわらず、参考見積もりや落札した業者の金額、落札できなかった業者の金額の間で大きく差がでるのか。</li> <li>通訳者自体のコストはどれくらいの差があったのか。</li> <li>宿泊費の部分にも大きく差がある。海外の宿泊費は安全を買うようなものであり、金額的に安全に宿泊できないのではないか。</li> <li>会議内容によって契約方式もケースバイケースに検討していただきたいが、今回のケースでは価格競争により行ったことについて特に異議はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通訳にはS、A、Bというランクがあり、最上位のSランクを最低限確保するようにと仕様に記載している。Sランクは同時通訳級のAクラスの中でも特に著名で、実績を持った者である。</li> <li>Sランクの中でも単価が若干違うというのが一点。また、通訳者の旅費でそれぞれ差が出ている。落札できなかった業者の金額が高額だったのは、米国やカナダ在住の通訳者を派遣する予定でいて、その分のフライト代が増したものと思われる。</li> <li>落札した業者ともう1者とでは1人当たり8万の開きがあった。</li> <li>請負契約のため、積算上の金額を超えた部分は事前準備料などの名目で補てんして安全なホテルを手配していると理解している。</li> <li>承知した。</li> </ul>

② 第6回日米民生用原子力エネルギー研究開発ワーキンググループ(CNWG)会合に係る会場借り上げ等業務一式

【一般競争入札（最低価格落札方式）】  
（大臣官房 会計課）

- ・ 入札説明会に参加した業者が、準備期間の短さを理由に辞退する一方で、入札説明会に参加していない業者が応札し落札した。なぜこの業者は履行可能だったのか。
- ・ 会議の開催が5月にもかかわらず、4月上旬から入札公告をして契約まで行っているが、前の年度に公告はできなかったのか。
- ・ 5月にやるのにこのタイミングはよくない。1年以上早めに場所を押さえるといった努力をすべきだった。
- ・ 一般競争であるにもかかわらず、会議する場所を押さえられる業者が限定されていたのではないか。それで公告しても1者しか応札してこなかったのではないか。
- ・ 業者が出した見積もりで予定価格を立て、業者はそのままの額を入札してきて、公告期間が短く1者応札で落札率が100%という状況は、競争入札として疑われかねない。最初から随意契約できちんと説明責任を果たす方法を取った方がよかったのではなかったか。
- ・ 会場借り上げの関係で、業者の方が空き状況を把握していて、仕様内容から見て対応可能と判断したものと思われる。そのため、説明会への参加も不要と考えたのではないか。
- ・ 会議のアジェンダのベースが決まったのが3月に入ってからということもあり、実際の手続がこのタイミングになったという経緯である。
- ・ 事業担当局課に対して、こういう会議は手配に時間を要するため、適切な時期に用度班に相談に来るよう話しておきたい。
- ・ 応札してこなかった業者に聞き取った結果、もう少し手続を早くして、どの業者も会場を確保できるタイミングで手続を行っていくというのが改善策にはなるかと思っている。
- ・ 承知した。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本件に関しては、事業担当局課には厳しく改善を求めると同時に、会計課も堂々とやれることはやっていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 承知した。</li> </ul>
<p>③ 文部科学省古紙等廃棄物の売払 【一般競争入札（最高価格落札方式）】 （大臣官房 会計課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ （1回目の入札が不調に終わり）2回目の入札の予定価格の立て方というのは、1回目ときの一番高い価格で入れた業者が、大体同じ金額で札を入れてくるということを見越したということか。</li> <li>・ 売払いを行っていく上では、高く売払うデメリットを考慮しつつも、変動するニーズを見極めながら予定価格は決めていくべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのとおり。</li> <li>・ 承知した。</li> </ul>
<p>④ 放射線に関する教職員セミナー及び出前授業実施事業 【随意契約（企画競争方式）】 （初等中等教育局 教育課程課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結果1者応募となったが、予想ではどのくらいの受注希望者が出ると判断していたか。</li> <li>・ 結果として1者になってしまう可能性の高い事業の場合、最初から随意契約をとというわけにもいかず、難しい事情が存在する。見極めというのが肝心である。</li> <li>・ 過去の経験上、原子力関係の教育事業は特定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5者程度は受注するのではないかと考えていた。</li> <li>・ 承知した。</li> <li>・ 承知した。</li> </ul>

の業者に偏りやすい。世間からの不要な疑いをかけられないよう注意を持った方がよい。

- ・ 過去、受注した業者は複数いるのか。
- ・ 過去に受注した業者が今回参加しなかったのはなぜか。
- ・ 参入する業者の出現が難しい場合は、事業を小分けにして発注するとか、特命随契にして契約するとか、金額を低廉化する努力を行っていただきたい。
- ・ 官庁として主体性をもって事業を実施し、事業の切り分けなど工夫を凝らして業者が参入するチャンスを確保していただきたい。

⑤ 第15回地球観測に関する政府間会合本会合等開催委託業務

【一般競争入札（総合評価落札方式）】

（研究開発局 環境エネルギー課）

- ・ （総合評価落札方式全般の話として、）今の運用の仕方では、一番技術点の高い業者が落札できず、評価は低い安価な札で入札してくる業者が落札しやすいシステムとなっている傾向がある。
- ・ （総合評価落札方式全般の話として、）技術点の一番高い提案の見積価格から、市場価格などの実績を引いて予定価格を立てることにより、一番技術点の高い業者がはじかれるリスクがある。良いものを調達しようという総合評価の趣旨からすると、これはいかがかと。

- ・ これまでに4者ほどが受注している。
- ・ こちらが求める事業規模を賄える人員を確保するのが難しかったのではないかと考えられる。
- ・ 競争性が確保される形を今後検討する。
- ・ 競争性が確保される形を今後検討する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>（総合評価落札方式全般の話として、） USTRのように契約時に予定価格のプラスマイナス10%ぐらいの予備予算を充てるようなシステムを日本でも検討したほうが良いのではないか。予定価格を適切にいかにするか、最高技術点がいたずらに弾かれる可能性には注意が必要である。会計課でも検討してほしい。</li> </ul> <p>⑥ 大学発ベンチャーへの投資事業者の投資動機付けに関する事例調査</p> <p>【一般競争入札（総合評価落札方式）】 （科学技術・学術政策研究所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入札のやり方として、技術点を加味する総合評価ではなくて、最低価格落札方式でもよかったのではないか。</li> <li>落札した業者がなぜここまで低い金額で入札できたのか、本当に履行可能なのかヒアリングしてもよかったのではないか。</li> <li>結果的には良かったのかもしれないが、履行してから途中でうまくいかなかったというケースが国の発注ではよくある。その点は今後も注意をもって行っていただきたい。</li> </ul> <p>⑦ 平成30年度文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究（写真フィルムの保存・活用に関する調査研究）</p> <p>【一般競争入札（総合評価落札方式）】 （文化庁 参事官付）</p>	<p>（会計課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>承知した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>結果としてはそうかもしれないが、こちらとしても提案内容の良いところと契約したいという思いがあるので、総合評価落札方式を採用した。</li> <li>この事業は既に終了しているが、何も問題なく終了した。</li> <li>承知した。</li> </ul>
--	---

- ・ 一者応札であった理由に公告の周知が足りなかったとあるが、来年度はここを改善すれば応札者は増えると思込んでいるのか。

- ・ 随意契約事前確認公募に移行せず、来年以降も競争入札の形を採るのであれば、今回1者応札であった原因を改善するための措置を講じなければならない。アンケートで寄せられた意見をクリアするなど、来年度新規参入の環境を整備していただきたい。

⑧ ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設（セーリング）の委託について

【随意契約（競争性のない随意契約）】  
（スポーツ庁 競技スポーツ課）

- ・ 施設を公募する時点で1者しか手が挙がらなかったのはなぜか。

- ・ 本件は委託契約であるから、清算条項に基づき額の確定の時に適切にお金が執行されているのかをチェックしているということでしょうか。

【総括】

- ・ 個別の審査の過程で述べた意見、改善を求めた点は適切に対応していただくとして、全体としては規定に則り適切に実施されている。

- ・ 周知が足りなかったことは改善すべきと考えている。また、応札者を増やすため、仕様書にも来年は手を加えるべきと考えている。

- ・ 承知した。

- ・ 候補に挙がる施設は全て公共施設のため、手を挙げた1者以外はトップアスリートの練習拠点として活用するよりも、一般住民の利用を優先したためと分析している。

- ・ そのとおり。